

2-6					
主題	教育と福祉の親和性				
副題	高校教諭から介護福祉士への転職の一例				
キーワード 1	人材確保	キーワード 2	業界イメージ	研究(実践)期間	18ヶ月

法人名・事業所名	日本福祉教育専門学校介護福祉学科
発表者(職種)	後藤真人(学生)
共同研究(実践)者	なし

電話	03-3205-1611	FAX	03-3982-5133
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	<p>学校法人敬心学園 日本福祉教育専門学校</p> <p>介護福祉学科(2年制)は1988年4月に設置され、現在、日本人の現役生ばかりでなく、転職を目指す職業訓練生や多くの国からの留学生も学んでいる。日々の授業や現場実習、そして国家試験対策などに力を注いでいる。</p>
-------	--

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

地方の私立高校で教育活動に携わる過程で、私は福祉業界への転職の決意を固め、介護の専門学校に入学した。転職を決めた理由は以下の3点に整理できる。①教育と福祉の連携が注目される情勢で、我が国における福祉の重要性に気づいたこと。②教育格差が広がる中、進学指導に対する意欲が失われたこと。③AI時代における雇用の不安を感じたこと。

これらの直観を意味のあるものにすべく、私は現在、自分の今までの勤労観や仕事のスキルを今後どのように活かすべきか考えながら、日々の授業や実習、そして就職活動に取り組んでいる。

慢性的な人手不足に悩む介護業界は、いよいよ2025年を迎える。私の転職経験が、人材確保や業界イメージの変革のヒントになれば幸いと思い、今回の発表に臨んだ。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

私の転職経験が人材確保の観点で参考になる点は、教職と介護職の職務内容の親和性であると推測した。まだ学生の身分で経験が乏しいながらも、現時点で私の教職経験の中で介護業界にも通用すると予想される仕事の分野を列挙する。最も親和性の高く、かつ重要であると判断した教育業務は以下の3点である。①「教育相談」におけるカウンセリングの姿勢。②「生徒指導」での道徳指導と情報共有のマネジメント。③「アクティブラーニング」のノウハウ。

また、これとは別に、私が国語教員であった点も加えるなら、文章読解指導の経験が、記憶の仕組みの探究に直結することを挙げてみたい。読解力の本質を考え続ける中、人間の「読む」行為は、文法や語彙に限らず、記憶の仕組みに大きく関係することを学んだからである。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

現場の経験、その他介護に関わる活動。

- ・実習Ⅰの①：訪問介護(5日間)2023年6月
- ・実習Ⅰの②：訪問介護(4日間)2023年8月

- ・インターンシップ：知的障がい者福祉施設（2日間）2023年8月
- ・実習Ⅰの③：重度訪問介護（6日間）2023年12月
- ・就職説明会：ハローワーク（1日間）2023年1月
- ・実習Ⅱ：介護老人保健施設（15日間）2024年2月
- ・実習Ⅲ：介護老人福祉施設（27日間）2024年8月、9月（予定）

#### 《4. 取り組みの結果》

- ・知的障がい者福祉施設で働く女性職員のインタビュー内容で「利用者との関わり方をうまく言葉で説明することは難しいけれど、子育てには役に立ったと思う」という発言があり、教育相談の観点に通じるものを発見した。
- ・重度訪問介護で、あるALS患者の方から頂いた「透明文字盤のセンスはある」という評価から、言語ツールの扱いと国語教育との親和性を確認できた。
- ・就職説明会で、特別養護老人ホームの採用担当の方に「教職経験者に何を期待するか」と質問したら、「保護者対応の経験」と答えてくれた。
- ・介護老人保健施設の認知症専門フロアに配属された際、ある認知症の女性と長くコミュニケーションをする機会を頂いた。その時、記憶に関する知識を活用して、彼女の回想を補助することができた。

#### 《5. 考察、まとめ》

未知数は多いが、現段階でも教職と介護職の親和性は非常に高いと判断できる。しかし、知識を伝達する性質に偏向した人材は必ずしも適性があるとは言えない。学級担任や生徒指導など、生徒と保護者の生活面に直接関わった経験が、より活かされるとの見込みである。

知的労働の雇用の将来性や意義がAIによって、必ずしも保障されない現代において、高度な対人スキルが要請される介護職は、大きなやりがいにつながる仕事として、魅力的に映るのではないか。ただし、世間一般がそれを認知し、評価が伴うという条件つきではあるが。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

「物質と記憶」(2015年) アンリ・ベルクソン著、岩波文庫

「実力も運のうち 能力主義は正義か？」(2021年) マイケル・サンデル著、早川書房

「我々はどこから来て、今どこにいるのか？」(2022年) エマニュエル・トッド著、文藝春秋

「ブルシット・ジョブ クソどうでもいい仕事の理論」(2020年) デヴィッド・グレーバー著、岩波書店

「教育格差——階層・地域・学歴」(2019年) 松岡亮二著、ちくま新書

#### 《8. 提案と発信》

エッセンシャルワークという言葉が生まれたことを好機とみて、社会貢献の面で業界アピールしてみているかどうか。近年は一部の知的サービス業において、その有用性に疑問を持ちながら働いている労働者も多いと聞く。給与面で優遇されていたとしても、心のどこかで「これでいいのか」と社会貢献性が欠如していると悩む人がきっと存在する。介護業界のイメージを改善する好機は今と感じる。